



会報 No.139 令和2年3月号

子育てしやすいまちをめざして

八王子市子ども家庭部長 小 俣 勇 人

早春の候、皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より本市の保育行政について、喫緊の課題である新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みをはじめ、多岐にわたり御理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。

昨年10月から幼児教育・保育の無償化がスタートしました。国から制度の詳細が示される時期が遅かったこともあり、市から施設や保護者に対して、十分な制度周知の期間を設けることができませんでした。副食費の実費徴収にかかる対応など、八王子市私立保育園協会や現場の保育士の皆様にも多大なる御協力をいただき、円滑に制度を開始できたことに改めて感謝申し上げます。

幼児教育・保育の無償化により、自治体間で給食費の保護者負担額に差が生じたり、保育需要が喚起されるといった新たな課題もありますが、引き続き、待機児童の解消を目指すとともに、保育の現場で働く保育士等の処遇改善についても財源を確保し、取り組んでまいります。

また、昨年5月に滋賀県大津市において、歩道を通行中の保育園児が交通事故に巻き込まれ、死傷するという痛ましい事故が発生しました。事故の発生を受け、本市では市内保育施設から寄せられた情報をもとに、警察と協力して、子どもたちが日常的に集団で移動する経路の緊急安全点検を実施しました。その中で出された指摘事項から、より安全に園外活動をするための注意点をまとめた『園外活動交通安全ハンドブック』を作成し、昨年12月に市内保育施設に配付しました。子どもと一緒に園外活動における注意点について話し合う題材として御活用ください。このほか、幹線道路付近のガードレールの整備など、より安全な交通環境に配慮した対策も同時に進めており、ソフト・ハード両面で、子どもたちの安全確保の徹底と、市内の交通事故の削減を目指してまいります。

令和2年度当初予算についてですが、保育関連の事業といたしましては、保護者及び保育士の負担を軽減するため、使用済紙おむつの園内処理にかかる運営費加算を創設するとともに、多子世帯の負担軽減を図るため、認可保育所等に通うすべての世帯について、第3子以降の給食費を無償化します。また、保育士の宿舍借り上げ支援において、国制度の対象外となる採用後6年目から10年目を対象に本市独自に支援を行います。このほか、幼児期における教育・保育の質の向上を推進するため、その中核的役割を担う「幼児教育・保育センター」を新たに設置するなど、児童福祉費全体で410億2千万円を計上しています。

本市では、子ども・若者が社会的自立に向け、かけがえのない「今」を生き活きと過ごしていけるよう、皆様からの貴重な御意見を参考とさせていただき、これまで取り組んできた子ども・子育て施策の充実に加え、若者期まで見通した切れ目ない支援を組み合わせ、本年3月に『子ども・若者育成支援計画』を策定しました。この計画の推進により、子育て家庭が過度な不安や負担を感じることもない子育てしやすいまちづくりを地域の皆様と力を合わせて実現していくとともに、当事者である子ども・若者が「このまちに生まれ、育つことができ本当に良かった」と心から思えるよう、全力で取り組んでまいりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

結びに、八王子市私立保育園協会の益々の御発展と各園の皆様の御健勝を祈念し、御挨拶とさせていただきます。

全 体 会 報 告 ・ 新 年 会

令和2年1月28日

京王プラザホテル八王子

2020年1月28日に京王プラザホテル八王子にて全体会が開催された。

山下副会長の開会の言葉により定刻通り開会し、宮崎会長より挨拶を頂いた。新年の挨拶と本で行われる園長研修にて、昨年自然災害の影響で危機管理がクローズアップされる中、この機会に各保育園にて点検・検討して頂く良い機会としていただきたいとの話であった。

〈八王子市より行政説明〉

八王子市子ども家庭部保育幼稚園課 大垣様

1. 令和2年度の八王子市の当初予算の内容について

- ① 0～2歳児の紙おむつの園内処理（補助金）
- ② 保育士の宿舍借り上げ支援事業について
- ③ 副食費の免除対象の拡大
- ④ 医療的ケア児の受け入れガイドラインの作成について

2. 障害児等保育助成費の単価見直しについて

- ① 障害児等保育助成費の決算額推移の説明
- ② 障害児保育加算に関する調査結果
- ③ 市区町村における加算に関する予算額の説明等

〈園長研修〉 AIG損害保険株式会社 並木様

「保育園に必要な安全管理の知識」（安全で健やかな保育のために）

- 1. リスクマネジメントと危機管理
- 2. 事故事例研究
- 3. 保育事故の責任

① 事故と4つの責任 ② 改定保育所保育指針（安全に関する箇所） ③ 保育所等における園外活動時の安全管理に関する留意事項

4. 事故防止のために

- ① 事故発生のメカニズム
- ② 保育施設の安全・危機管理体制づくり
- ③ 各施設における実践方法
- ④ “あんぜんmyマップ”の活用

〈協議及び報告〉

宮崎会長

協議事項については、副会長業務が多忙の為、現行2名体制（打越保育園・光宗先生、八王子ふたば保育園・山下先生）に加え、新たに桑都保育園・石井先生を加えた副会長3名体制を敷き業務に対応していくこと、また、これに伴い事務局長に元木保育園・中林先生、事務局次長にまや保育園・滝澤先生、事務局次長補佐に藤井保育園・榊原先生を任命することが諮問され承認された。こうした役員人事に関する諮問は本来総会で行われるが、全体会も総会に準じた位置付けであることから全体会において諮問し全会一致で可決承認された。

〈保育園協会新規事業他について〉

保育園協会ホームページ開設進捗状況について藤井保育園・榊原先生より報告があった。その後、各部会・各団体の報告が行われ、特別委員会の誠美保育園・折井先生より12月に医師会と幼稚園協会、保育園協会の3者協議をおこなった。現行実施の書面等の継続確認に加えてインフルエンザの意見書に限っては発症・終息の2度にわたる通院を行って対応して頂いているが、コスト面や新たな感染のリスクを考慮し発症時にインフルエンザの罹患確認と確認時からの感染終息を起算した形の証明を一度に行いたい旨の申し出についての報告があった。

〈懇親会（新年会）〉

光宗副会長の閉会の挨拶で全体会は終了し、18時からは懇親会が行われ、石森孝志市長や議員・行政関係者各位、多数の参加者であった。牛尾先生（めぐみ第一保育園）に乾杯の挨拶で始まり、令和2年の本会並びに市内の会員保育園のますますの発展を確認し、和やかなひと時を過ごした。顧問の斉藤先生（さつき保育園）の中締めで懇親会は閉会した。

（梅野）

令和元年度 養成校との懇談会

令和元年9月9日（月）に今年で6回目となる『保育士養成校との懇談会』が京王プラザホテル八王子にて開催されました。

同懇談会は「保育士が保育園で働きやすい環境を…」を主題として企画し、毎年情報交換を行っております。

昨年度に比べ今年は新たな参加校も増え、17校22名（昨年は17校25名）の養成校の先生方にご出席いただきました。八王子市役所からも、子ども家庭部保育幼稚園課より吉森課長にご出席いただき、八王子市における保育の情勢をお話しして頂きました。なお、当協会からは役員を中心とした19名が参加しました。

参加養成校は以下の通りです。

参加校一覧		
秋草学園短期大学	アルファ医療福祉専門学校	和泉短期大学
駒沢女子短期大学	相模女子大学	竹早教員保育士養成所
帝京大学	帝京科学大学	東京家政学院大学
東京教育専門学校	東京純心大学	東京保育専門学校
日本工学院八王子専門学校	八王子保育専門学院	明星大学
目白大学	和光大学	



主催者挨拶

八王子市私立保育園協会 会長 宮崎 豊彦

「当協会が一般社団法人化して1年が経ち八王子市私立保育園協会においても有料人材紹介、ホームページ作成等様々な活動を計画しております。

八王子市私立保育園協会では、保育士の育成を養成校との共通の課題とし、今後、協会統一の実習の受入指針や受入体制を制定することを計画している他、ボランティアや学生のアルバイト等の積極的な受け入れをさらに進めていくことを考えております。また高校生に対しても、職場体験やアルバイト、ボランティア等を積極的に受け入れ、保育園で働くことの魅力を伝えることで、保育士を目指す学生を増やしていきたいと考えています。そのためにも、学生、高校生の方々には是非、当協会主催のはちおうじ保育園フェアに来場していただき、様々な保育園を見てほしいと思っております。

学生の方々が希望をもって保育士になれるよう、保育園側も実習内容の向上等を通して保育士養成校の皆様と協力し合っていきたいと思っております。そのためにも本会を含めた情報交換の機会を設けることにより、多くの情報にて模索していく必要性があると思ひ、より良い情報を共有できたらと考えております。」とのご挨拶をいただきました。

八王子市役所情勢報告

八王子市役所保育幼稚園課長 吉森 研吾氏

八王子市役所 八王子市の保育の現状について説

明をいただきました。

「八王子の保育状況についてご説明いたします。八王子市で最も多くの待機児童がおりましたのは平成22年の496名です。そこから各機関のご協力をいただき、令和元年現在では56名となっております。今年度中の待機児童0を見込んでおります。また保育士さんにも対象となる八王子市の政策として、八王子市産業振興部参考振興課の事業で、八王子就職ナビに登録をした事業所を対象に、八王子市への中小企業への就業率と定着率の上昇を目的とし、条件を満たした方に奨励金をだしております。また、保育士の人材確保として、八王子市からの補助による宿舍借上げ支援事業を行っております。令和元年度は100名分の枠を準備いたしました。令和2年度は140名分の枠を準備しております。」

はちおうじ保育園フェアのご案内

八王子市私立保育園協会青年部 野辺 尚代

青年部長より今年度のはちおうじ保育園フェアの案内をさせていただきました。『はちおうじ保育園フェア』では、平成30年の実績で八王子市私立保育園協会会員園82園中51園の保育園が参加させていただいており、八王子市の保育園の特色を見てもらいながら自分にあった就職先だけではなく、実習先も選定してもらえるように各保育園の保育内容展として開催させていただいております。令和元年度は11月16日の土曜日開催となりますので多くの学生の方に来ていただけるように是非ご周知をお願い致します。」





保育進学セミナー開催のご案内

八王子市私立保育園協会雇用対策部 榊原 直哉

保育進学セミナーへの出展について依頼をさせていただきました。

「平成30年度にはちおうじ保育園フェアの一部として、将来保育士を目指す高校生対象の保育進学セミナーを開催しました。参加者は始めに保育士になる為の進学セミナーを受講し、セミナー終了後に隣

の部屋へ移動して出展して頂いた各保育士養成校のブースをめくり説明を聞きました。今年度も同様に高校生への保育進学セミナーを計画しておりますので、是非ご出展の程、よろしく願いいたします。」

当日の配布資料として昨年の八王子市私立保育園協会『実習』『アルバイト』『ボランティア』『職場体験』等の受入状況一覧表を配布させていただきました。

その後休憩をはさみ懇談会へとすすみました。

懇談会では実習での学生のエピソードや、学校での学生の状況等様々な話題が上がりましたが、特に実習の評価については保育園側、養成校側でお互いの考え方があり、養成校側でも各学校、実習担当者によって評価の捉え方が違うという面がありました。

会長挨拶でも伝えた通り、協会としては統一の実習受け入れのマニュアル、評価基準を作成していきたいという考えを伝えたところ、養成校側からは賛同の声が多く上がりました。

また、学生の動向として、求職に対しての方法の変化がみられ以前のように学校の求人票からの選択から求人サイトを利用した求職活動への移行がみられる。就職活動のタイミングも求人数も多く選択が増えた為に、ゆっくり目の就職活動の傾向がある。またここ数年は家賃補助制度への関心が大きいとの話が出ました。転職への気軽さが目立つ傾向があるとのことでした。要因の一つとして、インターネットやSNSで株式会社等の、転職を推奨するような広告を目にする機会が増え、転職への抵抗感が低くなっているようです。保育園側としてはできるだけ長く勤めてほしいという思いがありますが、学生は不満があると、わりと気軽に転職を考え、保育士不足の現状、それがやりやすい社会環境にあるようです。

最後は当協会副会長の光宗先生に締めのご挨拶をして頂き、養成校との懇談会を終了しました。

ご参加していただいた協会会員園の先生方ありがとうございました。



園長視察研修報告

去る2月14日（金）令和元年度園長視察研修を行いました。当日は22名の参加者で、今回は千葉県富津市の社会福祉法人わこう村「和光保育園」（定員90名、現在0歳児から年長児まで110名在園）を見学させていただきました。午前7時に八王子駅南口から貸切バスで出発し、中央道から首都高速・東京湾横断道路（海ほたる経由）を通り約3時間半位で和光保育園に到着しました。

さて今回の研修でお世話になりました和光保育園についてお話いたします。昭和32（1957）年4月にお寺の副住職様が開園されました。その後2代目の鈴木眞廣先生が園長にご就任され1980年代になって「保育者主導の保育」に疑問を感じられて「子どもを主人公にした保育」に着目され、その後保育学専門の大学教授や研究関係者との交流をもたれ一人一人の子どもを大切にする保育、子どもが子どもらしくある「遊び」を大切にする保育などを研究され実践されてきました。このような当時の保育園関係では考えていなかった新しい保育園づくりを目指されました。鈴木園長先生が当時お考えになられた理想の保育園像は、平成になって、新保育所保育指針に「一人一人の子どもを大切にする」ことが総則に漸く書かれました。これを国や保育園関係者が気付かなかった時代から将来を見据えられて実践なされたことに深く感銘いたしました。法人名は新しい村を作るということから「わこう村」と名付けられたそうです。到着してから1時間位の講義が園長先生から直接あり、子ども一人一人を大切にする保育、子どもが主体的に生きる保育、学校的にならない保育、子どもと大人が信頼しあえる保育、子どもが主体的・意欲的に学ぶ環境づくり、そして子どもの主体が発揮される場として実現できる保育、子どもの見ている



る景色を大人と共に見る保育、保育者と子どもが今この場所と時間を創り出す関係（ことづくり）を大切にする。またお



父さんたちが毎年夏に手作りプールを園庭に作ったり、お泊り保育もお父さんたちと一緒に泊まるなどのお話があり和光保育園の基本理念をおききすることができました。

その後園舎と園庭の見学をさせていただきました。園舎は戦前の軍隊の兵舎を移築した建物だそうで創立以来使っているようです。何回も改築工事を重ねたようで木造建築の木のあたたかい温もりを感じました。あえて新しい園舎に建て替えないと園長先生がおっしゃられておりました。園庭は広く園舎の片隅にはシャワー室と浴槽があり、いつでも園児が自由に使えるようです。私共のために昼休みを挟んで午後1時から3時まで丁寧な質疑応答の時間をもうけていただきました。

園舎が山に囲まれていて保育園のお隣には園長先生が住職をされているお寺（真福寺・真言宗智山派）があり、昔懐かしい日本の光景を感じました。南房総という1年中暖かく冬場でもコートを着ないですむ気候であるところから生まれた心暖まる保育園という感じがしました。園長先生・子どもたち・保育士の皆様・調理室の皆様の弾ける笑顔がとても印象に残りました。ご協力ありがとうございました。

以上、ご報告申し上げます。



隣接する（同法人の）特別養護老人ホーム長寿園との交流もあります。毎日長寿園の庭を借り、広々としたスペースの中で外遊びや探索遊び、季節の行事を行うことが可能になっています。

こうして、おじいさんやおばあさんの代から今日までたくさんの方々のご支援のおかげで、子どもたちは健やかに成長していくことができ、大変感謝しております。

園職員は、現在「働きやすい職場の環境づくり」をテーマとし、職員間で風通しの良いコミュニケーションを深めています。職員はいつでも「子どもの

最善の利益」を最優先に考え、子どもたちにとって常に大好きな園であるよう努めてまいります。



編集後記

平成31年4月1日に始まった平成31年度が、令和2年3月31日に令和元年度として終ろうとしています。2019年度は、台風19号やCOVID-19など保育園にとっても、子どもの命や、職員の命など危機管理を考えさせられる1年となりました。現在進行形のCOVID-19の影響で卒園式の対応ばかりではなく、入園・進級式等の4月以降の行事の対応も行わなければならない状況ですが、新年度は子どもたちが安心して元気に生活でき、すべての人が平和に生きることのできる1年となることを願うばかりです。

（千原）